

新刊案内

貸出し中の本は予約することができます。
HP・お電話でもできますので、詳しくは
カウンターまでおたずねください。

新刊
コー
ナー
にあ
るよ。

『正しい目玉焼きの作り方』

森下 えみこ／イラスト

河出書房新社 [Y590 タ]

生活していく上で大切なこと、身につけていますか？ いざ、1人暮らしをしても困らないように、家族と楽しく暮らせるように、「洗濯」「料理」「片付け・掃除」「裁縫」「家庭生活」の基本のきを教えます。

『森のユキヒョウ』

C.C.ハリントン／作

岩波書店 [Y933 ハ]

吃音に苦しむマギーは、ふしぎな力に満ちた太古の森で、捨てられたユキヒョウの子、ランパスと出会い、心を通わせていく。けれど、森には破壊の危機が刻々とせまっていた。ランパスと木々を守りたい。マギーは声をあげ…。

『こうしてぼくはスパイになった』

デボラ・ホプキンソン／著

東京創元社 [Y933 ホ]

1944年2月、ロンドン。13歳のバーティは一冊のノート拾う。それは秘密諜報員になるための訓練を受けた女性のもので、後半は暗号になっていた。ノートを書いたフランス人女性が行方不明になったと知ったバーティは…。

【実用書】

『図書館のゆるゆる人生質問箱』

北海道斜里町立図書館／著 ワニブックス [Y159 ト]

『最強に面白い中高理科』

武村 政春／監修 ニュートンプレス [Y400 サ]

『舞台が幕を開けるまで』

おーち ようこ／著 大修館書店 [Y770 オ]

【文芸書】

『世界の色をすべて君に』

くじら／著 スターツ出版 [Y913 ク]

『あの夏のクライフ同盟』

増山 実／著 幻冬舎 [913 マ]

『あの子を自由にするために』

アン・クレア・レゾット／作 岩波書店 [Y933 レ]

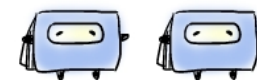
*大竹市立図書館のホームページの中にティーンズコーナーがあります。
勉強や悩みにも役立つリンク等もあるのでのぞいてみてね。



2025.6

大竹市立図書館ティーンズ便り第37号

〒739-0605 大竹市立戸1丁目6-1 ☎ 0827-52-5338



■利用案内

・開館時間 10:00~18:00 (火~土) / 9:00~17:00 (日)

・個人貸出 図書1人10点 (内DVD・CD資料2点)

・貸出期間 2週間

・休館日 月曜日 (祝日の時は翌日も)・祝日・年末年始・特別整理期間

毎月末 (ただし、土・日・月・祝の時は直前の金曜日)

ホームページアドレス (蔵書検索もできます) <http://www.tosho.otake.hiroshima.jp/>

スマートフォンをお持ちの方は
こちらのQRコードからもホーム
ページにアクセスできます。



大竹市立図書館には、ティーンズコー
ナーがあるのを知っていますか？
ティーンズコーナーでは、ティーン
ズ向けの本の展示をしています。春・
夏・秋・冬の年4回、入替えている
のでチェックしてみてください。

☆『夏』(6・7・8月の展示)

テーマは、

祈り

です。

戦争を知ることも大事です。

1冊紹介♪

『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』

汐見 夏衛／著 スターツ出版 [B913 シ]

中2の涼は転校先で同級生・百合と出会い、初めて会うはずなのになぜか懐かしさを感じていく。告白を決意した矢先、百合から75年前の戦時中にまつわる話を聞かされる。「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」続編。



*[]は図書館の請求記号です。

展示本リスト

『トンネルの森 1945』

角野 栄子／著 [Y913 カ]

太平洋戦争のさなか、幼くして母を亡くしたイコは父の再婚相手と生まれたばかりの弟とで疎開した。家のそばにある、暗く大きな森で脱走兵が自殺した噂を耳にし…。『魔女の宅急便』の著者が自らの戦争体験から描き下した物語。

『14 歳からの戦争のリアル』

雨宮 処凛／著 河出書房新社 [Y319 ア]

集団的自衛権ってなに？ 戦争の民営化ってなに？ 「戦争ができる国」って、どういうこと？ イラク、アフガン、太平洋戦争…。『戦場』を経験した人たちがリアルな戦争の姿を伝える。

『大久野島からのバトン』

今関 信子／作 [P913 イ]

瀬戸内海に浮かぶ島・大久野島では、戦時中、国際法で禁止されていた毒ガス兵器を作っていた。部活で島を訪れた香織たちは、自分たちと同じ年ごろに、毒ガス作りに携わっていたという人物と出会い…。

『ヒロシマをのこす』

佐藤 真澄／著 汐文社 [P319 サ]

日本国内はもとより、全世界から人々が訪れる「広島平和記念資料館(原爆資料館)」。原爆のむごさを今に伝え、「ノーモア・ヒロシマ」を静かに訴えかけるその博物館の誕生秘話と、初代館長の知られざるエピソードを紹介する。

『世界を平和にする第一歩』

河出書房新社／編 河出書房新社 [Y319 セ]

なぜ争いは起きるんだろう。いま、世界を平和にするためにできることって？ 作家、看護師、ピアニスト、アイドルなど 30 歳以下の 19 人が平和について考え、綴ったアンソロジー。おすすめブックガイドも掲載。

『パンに書かれた言葉』

朽木 祥／作 小学館 [Y913 ク]

2011 年の震災後、母の生まれ育ったイタリアへ旅だった少女、光。そこで、今まで考えたこともなかった真実を知ることになり…。戦争を乗り越えて生きてきた人々の“希望”を描く、ヒロシマとイタリアをつなぐ物語。

『ウクライナから来た少女ズラータ、

16 歳の日記』

ズラータ・イヴァシコワ／文・絵

世界文化ブックス [Y916 イ]

昨日までマンガと小説が大好きな普通の女子高生だったズラータは、母が必死で工面してくれた 16 万円をもって戦火が広がる故郷ウクライナからあこがれの日本を目指し…。日本避難に運命をかけた 140 日間の少女の日記。

『ある日、戦争がはじまった』

エバ・スカリエツカ／著

小学館クリエイティブ [Y986 ス]

2022 年 2 月、少女イエバの人生はロシアのウクライナ侵攻が始まったことで一変した。彼女が暮らすハルキウは攻撃下に置かれ、地下へ避難したイエバは備忘録として日記を書き始めた-。「戦争のリアル」を伝える体験記。

『水平線のかなたに』

ロイス・ローリー／著

講談社 [P933 ラ]

ふたりそれぞれがながめていた水平線で、戦争がはじまり、戦争が終わる。若いふたりの人生がまじわる-。第二次世界大戦、真珠湾、広島の人々の生きざまや、その時何があったかを、自身の経験をおりまぜながら綴る。

『わたしがいどんだ戦い 1939 年』

キンバリー・ブルベーカー・ブラッドリー／作

[Y933 フ]

1939 年。2 度目の世界大戦さなかのロンドン。足の悪いエイダは、けんめいに歩く練習をしていた。歩けさえすれば、弟といっしょに疎開できる！自分らしく生きるために戦う少女と、彼女をあたたく包む村の人たちを描く。

『4 歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから

生還した』

マイケル・ボーンスタイン／著

NHK 出版 [Y936 ホ]

1940 年にドイツ占領下のポーランドに生まれたマイケルは、ゲッターや収容所暮らしを余儀なくされた後、わずか 4 歳でアウシュヴィッツに送られた。彼はなぜ、生き延びることができたのか-。最年少の生還者がつづった実話。

『アンネの日記』 アンネ・フランク／著

文芸春秋 [Y949 フ]

ハリウッドスターになりたかった。恋もしたかった。性にもちょっぴり興味があった。本当は意地悪な子なんだって知ってほしかった。オリジナルの日記から復元された完全版。アンネが本当の肉声で語りはじめた。

他にもこんな本があります♪

* 『いしづみ』

広島テレビ放送／編 ポプラ社 [H210 イ]

* 『原爆』

石井 光太／著 集英社 [H217 イ]

* 『数奇な航海』

川井 龍介／著 旬報社 [Y319 カ]

* 『はじめての戦争と平和』

鶴岡 路人／著 筑摩書房 [Y319 ツ]

* 『平和のバトン』

弓狩 匡純／著 くもん出版 [P319 ユ]

* 『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂 冬馬／著 早川書房 [913 ア]

* 『この世界の片隅に上・中・下』

こうの 史代／著 双葉社 [726 コ 1・2・3]

* 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

汐見 夏衛／著 スターツ出版 [B913 シ]

* 『南洋のエレアル』

中路 啓太／著 中央公論新社 [913 ナ]

* 『伝言』

中脇 初枝／著 講談社 [913 ナ]